
俺と（元）魔王様の交遊録

気まぐれ男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と（元）魔王様の交遊録

【Nコード】

N9026Y

【作者名】

気まぐれ男

【あらすじ】

ある日女の子を拾った。その子は見目麗しく、健気で、頑張り屋さんで、魔族で、元まお…う…さま？。

彼女の機嫌を損ねると即死が待っている状況で旅人Aは生き延びることが出来るのか！？

「俺の説明。旅人Aって…」

「そ、そんな、私そんな立派な子じゃないですよ〜」

基本コメディ調でいこうかと思ってます。あまり小説等を書き慣れ

ていないので時々文章が崩れると思います。気分で更新します。
それでもよかったですら見てみてください。気分です。

邂逅

「自分の人生は自分で決める！」そう言って家を飛び出し、旅を始めたのが今から5年程前の12歳のとき。

そして17にもなり旅にもだいぶ慣れた今日この頃の今。俺の目の前にはひとつの問題があった。

旅何かしている以上仕方のないことなのだが、これまでも色々な問題を経験してきた。

まあ、世間知らずの子供がいきなり旅をしたせいというのもあると思うのだが、それ以上に不幸の星の元に生まれたんではなかるうかという程、問題ごとに巻き込まれることが多かったと思う。

薄幸自慢みたいになってしまっただが、例えば、これまで街から街に行くまでに山賊や魔獣に襲われることが十回以上なんてざらにあったし（普通は1回の旅で1回か2回くらいらしい）、ギルドの仕事からさらなる問題事が出てきた。なんてことも幾度となくある（普通の魔獣退治の依頼が闇組織につながってたり）。他にも怪しい洋館での悪魔との交流や神様の逆鱗に触れて命からがらに逃げ出したりと様々なことがあった。

そしてそんな俺の勘が言っている。「これはダメだ。」と

…？何？そんなことはどうでもいい？なんなんだよお前の勘（笑）
って？

いいじゃん別に。俺の今までの苦勞をそんなことなんて言うな。拗

ねるぞこのやろう！…こほん。気を取り直して

事の経緯（つまりは問題発見まで）はこうだ。ギルドへの依頼をした村に向かっている時のこと。なんの変哲もない道を愛用の馬車に乗っての移動中、俺はその問題と会った。

女の子が倒れている。しかも怪我をしているおまけ付きで。

え？それがなんの問題になるんだって？助けてあげればいいじゃん？間違っても変なことはするな？

うるさいな。俺だってこの子が人間だったら迷わず助けるよ。変なことなんてしないって。ほんとだよ？

でもここで問題がでてくるのは、倒れている女の子は『魔族』だということ。

褐色よりもさらに黒味を増した肌にツンと尖っている耳。さらには感じ取れる魔力からみても彼女が魔族なのはほぼ間違いないと思う。

うん？だからなんだって？関係ないだろ？さっきから聞き返しすぎ？うざいからさっさと進めろ？

……………ちよつと待って。

……………

.....

.....

.....
くすん。.....

.....

..... よし。立ち直った。大丈夫。僕なら頑張れる。

ということとその辺のことを今から説明します。イエーイ！

『魔族』と『人間』。それは『人間とは違う人型の生物』という非常に人間本意な考えの下、区別されている。

魔族の一般的な代表例と言えば、獣人やエルフと言ったものが挙げられる。

その名の通り獣人は人間よりも高い身体能力を、エルフは高い魔力や特殊能力を持っている。そのため人間のことを見下し、嫌っている。

人間は言わずもがなのだが、自分たちよりも優れた存在、違う存在と言うのを妬み、嫌悪するため魔族を嫌っている。

その当然の結論として『魔族』と『人間』は非常に仲が悪い。なのでせっかく助けても「この、下等生物が！」などと言われて攻撃されるかもしれないと言うことだ。

だからつい考えてしまっわけだ、命をかけてまでこの子を助けるべきなのか、俺の勘（笑）にしたがって見てみぬふりをしてしまうか。俺は既成概念に囚われた物の見方ってのが好きじゃない。自分の目で見てから判断するべきだと常常考えている。なのでこの子は人間に友好的、若しくは助けた相手を襲う程礼儀知らずな子じゃないのかどうかわからない以上助けてあげてもいいんじゃないか？という気はする。

しかしそこで不幸の星に生まれ育った俺の勘（笑）は待ったを掛ける。なんかこの子はやばいんじゃないか？と。絶対面倒事を起こすぞ。魔族と人間は仲が悪いんだから。等々

…どうするべきか。助けるか。否か。良心か。経験か。

よし。決めた。俺は何も見っていない。

俺は道端に倒れた魔族の女の子なんて知らないし、見てもいない。それでいいじつ。

違うぞ？これは見捨てるんじゃない。元から俺は見えていない。だから俺には助けるか見捨てるかの選択肢なんて元からなかったんだ。だから俺に良心の呵責なんて生まれえない。だから俺は無実なんだ。

という小学生級の言い訳をしながら、この場を後にしようとした時だった。

「に、にん…げ…ん。」

女の子が目を覚ましたのは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9026y/>

俺と（元）魔王様の交遊録

2011年11月27日00時50分発行